

## 人口減少は市の最大の問題 未婚率の上昇は非正規・低所得化が原因

前号の「鶴岡市母子保健計画」に資料として人口動態が掲載されています。

それをみると、出生率（人口千対）は平成15年以降21年までは県よりも下回り、全国と比べて差が大きくなっています。

は一貫して県より高くなっています。

出生率が低く死亡率が高ければ自然動態での人口減少となり、さらに社会動態で流出がありますから、年間1000人を超える人口減少は鶴岡市の最大の問題となっています。

17年からは減少しています。

年齢別未婚率では男性・女性とも30歳以降は平成7年と比べ22年では10ポイント前後も高くなり未婚率が急速に進んでいます。

鶴岡市では「総合計画」の中で、「安心文化都市」を掲げ、地域コミュニティづくりの具

体化のひとつとして、「結婚に向けた活動への支援」施策を図り、未婚化・晩婚化を招

いている最大の問題は若者の低所得化の進行です。



**渡部信雄さん（三和）の守り神**  
渡部信雄さんの玄関に春、暖かくなると蛇が日向ぼっこに来るとのこと。渡部さんは「我が家の守り神」と言っています。今年は巳年で何かいいことがあるかも。



17日～19日、藤島体育館で第22回ふじの花まつりが開催されました



### 出生率年次推移（人口千対）

	平成5年	平成10年	平成15年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年
全国	9.6	9.6	8.9	8.6	8.7	8.5	8.5
山形県	9.4	8.8	8.2	7.7	7.8	7.4	7.4
鶴岡市	9.7	8.9	7.8	7.3	7.3	7.3	7.5

（資料：保健福祉統計年報）

### 死亡率年次推移（人口千対）

	平成5年	平成10年	平成15年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年
全国	7.1	7.5	8	8.8	9.1	9.1	9.5
山形県	8.8	9.2	10.1	11.1	11.6	11.7	12.1
鶴岡市	9.3	9.8	11.4	11.5	12.8	12.8	12.9

（資料：保健福祉統計年報）

### 婚姻率（人口千対）

	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
全国	6.7	6.1	5.9	6.4	6.4	5.7	5.5
山形県	6.1	6.4	4.9	5.2	5.6	4.7	4.4
鶴岡市	5.8	5.8	4.5	4.9	5.2	4.4	4.1

（資料：国勢調査）

### 年齢別未婚率（男）

年齢	年齢別未婚率（男）				年齢別未婚率（女）（単位：%）			
	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
20～24歳	90.9	88.5	89.9	91.8	83.0	82.0	83.9	85.5
25～29	61.0	63.5	63.8	66.5	39.2	46.1	48.3	50.9
30～34	33.9	39.5	41.3	42.6	13.9	20.3	24.8	26.0
35～39	23.1	26.2	31.1	33.3	5.7	9.6	14.6	18.2
40～44	16.2	19.4	22.7	28.8	3.5	5.0	8.4	12.7
45～49	10.0	15.2	18.1	22.2	3.7	3.4	4.9	8.2

（資料：国勢調査）

市役所は正規職員3人に対し非正規が1人の割合で、非正規の雇用と待遇の改善に取り組むことが大切です。

低所得は結婚を妨げる要因であり、この間、正社員を非正規労働に置き換え、低所得化をすすめた政府・財界の政策が、未婚化・晩婚化に拍車をかけているといえます。

## 高橋甚治郎氏の高甚式農機具(2) 鈴木重雄さん(八色木)の体験

高甚式農機具を見られた鈴木重雄さん(八色木)が、馬耕にまつわるご自身の体験談を寄せられました。

4月3日の月遅れの雛祭りが終わると、一斉に田起こし、苗代作りが始まる。馬小屋から解放された馬は、春の陽光を浴びて元気がでる。馬の首に八毛(肩掛)をつけ、鞍を乗せ

鞍の両側に力綱をつけ犁を引かせる。

馬の轡(くつわ)の両方の追綱で犁を持ちながら後で馬を操る。

馬は犁で起こした溝を真直ぐ犁をひいて歩く人馬一体の作業である。これらの技術を競う馬耕競励会が各地で開かれていた。

田植作業が天神祭の前後に行なうので、そ



高甚式犁

れまで一連の作業を終えなければならぬ。耕起の次が碎土で、耕起した土をトラクターの耕耘部のように爪のついた鬼馬犁をひかせて砕く、この作業は馬にとつて重労働であった。馬だ

けの作業で間に合わない農家は、長い柄のついた田叩き棒で砕いた耕起した土の乾燥した日を選んで行なう。のどかな春日和の作業な

### 「生きてゆく準備がやっとできた」 「しんぶん赤旗」を読んで 青山 崇

どの新聞にも「読者の文芸」欄がある。5月19日号のしんぶん赤旗日曜版の「花壇」という詩である。本題に入る前に、いつも気になっっている、前にも書いたが安倍首相とメディアの関係である。同号の「メディアをよむ」欄に、ついにか、と思う人物が首相公邸で会食とある。みのもんだである。

さて詩を紹介しよう。私は土を掘り起こしたノ大きなシャベルでもくもくとノパンジーを買ってきてノ少しず

ので楽そうに見えるがきつい作業であった。一番起こし二番起こしを繰り返して代掻き作業に入る。(つづく)

つ植えていったノ今思えばこれがノ私がやりたくてやったノ最初のことかもしれないノ立派な花壇ができたねとノおばあちゃんがほめてくれたノ父がほめてくれたノ学校にも働きに



### アメリカへの返事は

先に、靖国神社への閣僚の参拜にでた中国と韓国の抗議には返事をしたが、知らないと言った。アメリカと韓国の大統領の共同声明に反応する形で官房長官の記者会見があったが、それが返事なんですよ。

しかし、これが政府としての返事としてのいか。例えば、関係大臣が話し合ったとか閣議にかけたとかではなかったでしょう。単に首相の暴走発言のための言い訳に聞こえませんかでしたか。一連の発言は第一次から続いている彼個人の考え方ではないんですか。

官房長官は、「日本は侵略ということを否定したことがない」と言っていたが、それじゃ「侵略」と認めただがや、と言つと認めしていないと言つてしよ

も行けないノ私をほめてくれたノ弱りきつた私の心にノ花が咲いたノ生きてく準備がやっとできた

選者の評は、「思春期の危機を振り返った詩ですが、いま、つらい思いを抱えて生きている若者たちへの、励ましの言葉としても読めます。…生きてゆく準備がやっとできた。いい言葉ですね。」とある。やさしい言葉で奥深い心を表現しているいい詩ですね。

う。ここがドイツと違うところですよ。

最近まで「村山談話」「河野談話」がイケナイから変更しなければならぬと、元気に言つてたじゃないですか。しかも「侵略」という定義があるか、従つてあの戦争を侵略戦争と言えるのか、と首相がイキマイテいたのは数日前ですヨ。それで靖国への参拜には外から口を出すなということだったんです。

そんなことから官房長官の記者会見は納得できないし、外国からも色々言いたいことがあると思いますヨ。特に報道されない東南アジア諸国にはサ。

それにしてもやはりと言つるか、当然と言つるか、アメリカには「オコトバをカエス」ようなことはしませんですネ。やわらかく受け止め、ナントナク体裁を整え、ナオ余力を残した型。そんな感じがしますです。(石川)

## 河口ひろく造船の音五月来る

工藤 博司



(画・加藤貞雄)

酒田市民の憩いの場となっている日和山公園は、港町としては高台にあり、眺望のきく場所から見下すと、酒田港を中心に最上川がいよいよ河口から海に入る全景を手取るように望むことが出来る。

目を東側に転ずれば、月山に山なみが多く雪を残したまま輝いている。

下からは、造船会社の作業の音が活きいきと伝わってくる。

伝わるというより登ってくる感じ、やはり仕事の音というもつてのよな活況を呈することを願つてやまない。